

Glocal Tenri



7

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.11 No.7 July 2010

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
御教えを政治に生かす道を・・・
／深谷忠一 1
- ・ 天理教教理史断章 (55)
城尾文書⑤
／安井幹夫 2
- ・ 天理教海外伝道の資料 (7)
上海伝道関連史料⑦
／深川治道 4
- ・ 天理異文化伝道の諸相 (71)
コンゴ伝道に見る異文化接触 [37]
／森 洋明 5
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (19)
信仰とは自らに自信を持って進む道
／金子 昭 6
- ・ 「二つ一つ」の環境学 (32)
環境先進国から何を学ぶべきか③
原発は温暖化対策の切り札か？
／佐藤孝則 7
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (16)
文化構築主義の抱える問題
／井上昭洋 8
- ・ 天理スポーツ (2)
障害者スポーツと天理①
／難波真理 9
- ・ 宗教・国際協力・NGO (20)
SVAの歩み⑦
／野口 茂 10
- ・ オーストラリア通信 (2)
ウィチェッティ・クラブ
／土井幸宏 11
- ・ 図書紹介 (53)
『地球の洞察—多文化時代の環境哲学』
／金子 昭 12
- ・ English Summary 13
- ・ おやさと研究所ニュース 14
平成 22 年度公開教学講座「現代社会と天理教」(1)
／研究報告会／伝道研究会／新刊案内／「教学と現代 VII」開催のお知らせ

巻頭言

御教えを政治に生かす道を・・・

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

今日のように、政治が日常の生活に対して大きな影響力をもつ状況になると、つい政治的な解決が万能のように思われがちです。「政治さえ良くなれば全ての問題は解決される」とか、「体制の変革をすれば全ての矛盾はなくなる」などと考える人が増えて、宗教団体も政治に直接関与して世直しをすべきだと主張しています。しかるに、政治の力だけで理想社会を作ることができるというのは、人間の力を過信した傲慢な考えであり、誤った楽観主義による幻想に過ぎません。野党が与党の失政を糾弾し政権を奪っても、自らが声高に叫んでいた理想・改革を実現できるとは限らないのは、昨今の日本の政治状況でも明らかな通りであります。

ところで、現在、天理教のようばくとして名を連ねている日本の国会議員は、衆議院に 45 名、参議院に 16 名います。また、おさづけの理を拝戴するまでには至らないけれども、お誓いを済ませて別席を運んでいるという中席者は、衆議院議員で 34 名、参議院議員で 3 名います。

もし、これらの議員さんたちが集結して一つの政党を立ち上げれば、民主、自民に次ぐ第 3 極となれる大きな勢力になります。また、この合計 100 名近い議員の中には、総理経験者、現職の閣僚や閣僚経験者、与野党の党首や党首経験者などが多数含まれ、また、地方政治家の中にも、知事や市長などに大勢のようばくがいますから、政権を担う力も十分にあります。

ところが、これらの人々が結集して、新たな政党が立ち上がるという事態には決してなりません。何故なら、これらの議員さんたちは、天理教信者ではあるけれど、天理教が推薦して選出した議員ではないからです。換言すれば、天理教団が特定の議員のために組織票を集めることとはないということなのです。

天理教は政党をつくらない。その理由は、天理教は、特定の党派や国家や民族の幸福を目指す教団ではないからです。教祖は「一れつはみなきょうだい」そして「反対するの可愛いわが子」と仰せられ、全人類の救済を目指しています。ですから、自分たちだけの政党を結成し

て他党の人を排除するとか、政権をとって一國の国益のために他の国と対峙するというようなことはしないのです。

そして、さらに申せば、教祖は、現世だけの話ではなく、前生、今生、来生と末代にわたる救済を説かれているわけですから、現世利益をかかげて特定の政党と結びつき、教勢を伸ばそうなどとは全く考えないのであります。

とは申せ、政治も社会現象の一つであり、人々の日々の生活に深く関わっています。善政は人々に希望をもたらし、悪政が多くの人を不幸にするのは事実であります。ですから、「政教分離だ」「宗教と政治は救済の次元や手法が異なる」などというだけで、政治と全く関わらないのも無責任だと思えます。本教の教えに照らした善き政治のあり方、望ましい政治家の姿を探索することは、一面大事なことだと思っております。

先述の現職の国会議員は、民主党の人が 66 名、自民党の人が 31 名、たちあがれ日本が 1 名とそれぞれの党派に分かれてはいます。しかしこれらの議員さんは、誰しもが、自ら教えを求めて親里ちばに足を運び教えを聞かせて頂いた人々たちなのです。名所旧跡を巡る旅人が天理に立ち寄ったのではなく、それぞれ皆、別席場で願書を提出しお誓いをして、お道のお話を聞かせてもらった信者さんなのです。

本教が集票マシンになっていないのに関わらず、党派を越えてようばく・信者の議員が増加しているのは、政治家の中にも純粋に道を求めている人が大勢いる証であります。またそれは、教祖の教えが、政治の中により多く生かされる可能性が増すことでもあると思います。ですから、「戦い、敵、勝利、権力」などという言葉が飛び交う現実の政治の世界で、欲や高慢を戒め、勝つことより負けることを、闘いよりより献身をという教えが、どのような形で実践できるのかを探索するのは、困難であるけれどもやらねばならないことだと思えます。

そして、いつの日にか、まわりの相手を変えて世直しをするのではなく、自らの内なる心の変革を通して世なおりを目指す世界が、実現することを願う次第であります。